

令和6年
9月26日(木)

発行所：六条公民館
電話：0776-41-1001
発行：不定期
適時無料配付

六条公民館新聞

昔ながらの稲刈りを体験

刈り取りに汗した体験から学ぶこと

黄金色に実り、頭を垂れる稲穂。実りの秋を迎え、六条公民館では地元の小学生の稲刈り体験実習を行いました。

稲刈りを体験したのは六条小学校の4年生・5年生の児童。

六条公民館では児童たちに農業体験を通して農業の大変さや収穫の喜びを感じ、食べ物の大切さを知ってもらうと毎年田植え実習と稲刈り実習を行っています。

収穫した稲は児童たちがごとし5月に田植えし



て育てたもので、児童たちは農家の方々から「鎌は水平に引いて刈る」などと教えてもらいながら、田んぼの中に入り、横一列に並び、夏の日差しを受けて大きく立派に成長したイネを丁寧に刈り取っていました。

いざ稲刈りが始まると、友だちと和気あいあいとおしゃべりをしながら、鎌で一つずつ丁寧に収穫。時には農家の人たちから鎌の扱い方や刈り方のコツなどを教わるなど、真剣な面持ちで

稲を1株ずつ束ねて刈り取っていました。刈り取った稲はそのまま、田んぼの中でコンバインにかけて脱穀していました。

今回収穫したのは比較的暑さに強いとされるタンチョウモチという品種です。

稲刈りを終えた児童たちは「鎌で刈るときは力を入れないといけないの

で難しかった」「昔の農家さんはこんな大変なことを毎年やってたんだって思った」「最初は難しかったけどだんだん慣れてきて楽しかったです」とか「初めての体験だったのでよかったです」など話していました。収穫したもち米は精米して収穫祭で食するとい



うことです。

- 今回の稲刈り実習については、公民館事業の一環として、
1. 普段食べているお米がどのように作られているのかを知る。
 2. 農業に興味関心を持つ。
 3. 食に対する感謝の気持ちを育てる。
 4. 共働作業での協調性を養い、昔ながらの作業・鎌で稲を切った後の達成感を味わう等のねらいで実施されたものです。

